

私を語る

第22回

R. T. 新制18回

昭和43年 国文学科卒

1968年に国文学科を卒業して、父の出版社に就職し、結婚後は夫の会社の事務と子育てに追われる毎日でした。子どもたちが巣立ったことで、長年の夢であった織物教室に入門し夢中になって勉強しました。教室ではテーブルセンター、タペストリー、クッション、マット、ストール等様々な物を織り、祖母の形見の和服を裂いて作った裂織のテーブルセンターで新人賞もいただきました。

学んだ織物の中でもストールに魅せられて、それから20年間ひたすらストールを織り続けています。素材はシルクを中心に、綿、麻、毛等、天然素材にこだわっています。織り方は平織中心ですが、チェック柄、縞柄等糸と色とで自由自在、私自身が経（タテ）糸と緯（ヨコ）糸との思いがけない出会いに驚かされる毎日です。

2010年に織り溜めたストールの作品展を初めて開催いたしました。多くの方に見て触れていただくことができました。私のストールのファンの方も増え、喜んで使っていただけることは何よりの励みになっています。またストールを素敵に着こなしていらっしゃる姿を拝見する時は作者冥利に尽きます。

日本女子大学を創設なさった成瀬仁蔵先生の建学の精神である三つの柱、信念徹底・自発創生・共同奉仕を目指して勉強するよう教えを受けました。どれも難しい課題ですが、私の織物人生は柱の内の、自発創生（各自の創造的能力の尊重と開発に努める）、信念徹底（自らの人格を高めて使命を見出し、全身全霊を尽くして前進すること）は実践できたのではないかと考えております。